



2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社マミーマート 上場取引所 東
コード番号 9823 URL https://mami-mart.com
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩崎 裕文
問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 岩本 潤 TEL 048 (654) 2514
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第3四半期の連結業績（2023年10月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	119,173	11.3	5,535	26.5	5,975	25.5	4,029	35.7
2023年9月期第3四半期	107,075	8.6	4,375	8.2	4,762	8.0	2,968	0.4

(注) 包括利益 2024年9月期第3四半期 4,059百万円 (34.4%) 2023年9月期第3四半期 3,020百万円 (1.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	403.17	—
2023年9月期第3四半期	278.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期第3四半期	71,728	37,217	51.8	3,718.06
2023年9月期	66,428	34,014	51.2	3,402.59

(参考) 自己資本 2024年9月期第3四半期 37,180百万円 2023年9月期 33,980百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	32.00	—	51.00	83.00
2024年9月期	—	40.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	47.00	87.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	156,000	7.6	6,000	1.7	6,500	1.8	4,350	0.8	435.19

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期3Q	10,796,793株	2023年9月期	10,796,793株
② 期末自己株式数	2024年9月期3Q	796,878株	2023年9月期	810,177株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期3Q	9,994,008株	2023年9月期3Q	10,644,831株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（表示方法の変更について）

前第3四半期連結累計期間において、「特別利益」の「貸倒引当金戻入益」を区分掲記しておりましたが、金額的重要性と回収実態の観点から、第1四半期連結累計期間より「販売費及び一般管理費」に含めて表示しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の連結財務諸表及びセグメント情報等の組替えを行っております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①業績数値

当第3四半期連結累計期間の連結営業成績は、営業収益119,173百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益5,535百万円（同26.5%増）、経常利益5,975百万円（同25.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,029百万円（同35.7%増）となりました。

セグメント別の営業状況は、以下のとおりです。

(スーパーマーケット事業)

売上高 117,142百万円（前年同期比11.6%増）
セグメント利益 5,497百万円（前年同期比27.0%増）

スーパーマーケット事業では、新フォーマット「生鮮市場TOP!」「マミープラス」への転換を進めており、圧倒的な価格、品質、他にはないオリジナル商品の開発、SNSを利用した情報の発信を行い、来店頻度の向上に注力した結果、既存店の売上高は大きく伸長いたしました。改装店舗の年商は2年目以降も伸長し続け、既存店の収益基盤は確立しつつあります。

既存の「マミーマート」店舗においても、お客様がより快適にお買い物しやすい空間を提供するため、生鮮・惣菜商品のカテゴリー強化、日配・グロサリー商品の拡充、売場レイアウトの変更を実施いたしました。

セグメント利益は、従業員の生活・労働環境向上を目的として、ベースアップを実施し、雇用形態を問わず、会社と共に成長し続ける人材への投資も行っている一方で、ローコストオペレーション運営の施策として、AI自動発注、LSP（Labor Scheduling Program）といったデジタル関連への投資、フルセルフレジの導入、三郷物流センター（埼玉県三郷市）の稼働等を進めた効果が現れ始め、順調に増加しております。

(その他の事業(温浴事業・葬祭事業))

売上高 304百万円（前年同期比 4.3%減）
セグメント利益 37百万円（前年同期比17.8%減）

2024年6月30日現在の店舗数は、78店舗（マミーマート他44店舗、生鮮市場TOP!25店舗、マミープラス7店舗、温浴事業1店舗、葬祭事業1店舗）となっております。

②企業の経営方針及び取り組み

当社グループ(当社及び連結子会社)は、食生活を通じて地域のお客様の健康と笑顔あふれる豊かな人生を応援する「Enjoy Life!」(※)のグループコンセプトのもと、2024年9月期からスタートしている第二次中期経営計画における取り組みとして、以下に注力しております。

(※)「Enjoy Life!」とは、地域のお客様に毎日の食生活を通じて、健康で笑顔あふれる豊かな人生を楽しんでいただくことを応援する、マミーマート独自のコンセプトです。

[圧倒的地域No.1店舗の構築]

従来より取り組んでいる「新フォーマットのディスティネーション店舗としての魅力」を持続的に進化させ、心躍る店舗作りを実施いたします。魅力的な商品開発、製造能力強化を目的として、自社製造工場である彩裕フーズに惣菜の新規設備を導入いたしました。今後も他店にはない、インパクトあるディスティネーションアイテムの拡充を進めてまいります。

また、2023年11月に生鮮市場TOP北上尾店にて開始したネットスーパー事業は、お客様から好評を得ており、2024年7月から対象エリアの拡大、便数の増加を実施いたしました。地域のお客様の、より便利なお買い物環境の実現に向けた取り組みをしております。

〔出店・改装スピードアップとエリア拡大〕

当第3四半期連結累計期間は、2024年4月に弥十郎店（埼玉県越谷市）、6月に柏若葉町店（千葉県柏市）を「マミープラス」へ改装、5月に流山セントラルパーク店（同流山市）を「生鮮市場TOP!」へ改装し、業績を伸ばしております。

第4四半期においては、7月に野田山崎店（同野田市）をマミープラスへと改装、8月にフラッグシップ店舗として、生鮮市場TOPコーナン京葉船橋インター店（同船橋市）の新規出店を予定している他、9月にも新規出店を1店舗予定しております。

〔人材育成〕

スキルアッププログラムを導入し、従業員一人ひとりの技術を正當に評価して資格等級と連動させ賃金に反映することで、早期成長を促し、やりがい・満足度の向上に繋げております。

従業員満足度向上に向けた施策の一環として、オフィスカジュアルを導入し、個人の多様性・個性を尊重した職場環境を構築しております他、入社5年目までの新入社員を対象とした奨学金返済支援制度を制定いたしました。

そして、店舗・本部が一体となった業務プロセス改善活動（M3活動）では、パートナー社員を中心にチームで改善に取り組んでおり、好事例を全店へ展開する取り組みを実施しております。

これらの施策による従業員の「やりがい・働き易さ・創造性発揮とコミュニケーションの活性化」を通して、更なる生産性向上へと繋げてまいります。

〔CSR活動〕

当社は、2006年より日本補助犬協会の活動を支援しています。社内理解浸透を目的として、2024年5月に日本補助犬協会主催の「心のバリアフリー検定」の社内講習を実施し、全店の店長、本部の社員が受講いたしました。補助犬の啓発と受け入れはもちろん、「お声がけ」「困りごと」についても、改めて考える機会・きっかけとなりました。

当社では、今後も「心のバリアフリー検定」講習は継続的に行うとともに、すべてのお客様がお買い物しやすい店舗作りを目指し、インクルーシブ社会の実現を推進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より5,300百万円増加し71,728百万円となりました。これは、主にリース資産と差入保証金の増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より2,096百万円増加し34,510百万円となりました。これは、主にリース債務と買掛金の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より3,203百万円増加し37,217百万円となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日に公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。今後、何らかの変更がある場合には、適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,907	6,908
売掛金	3,014	3,342
商品	3,137	3,457
貯蔵品	7	10
その他	2,620	2,703
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	15,683	16,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,906	13,313
機械装置及び運搬具（純額）	415	506
土地	21,164	21,164
リース資産（純額）	3,849	6,103
建設仮勘定	122	293
その他（純額）	1,365	1,673
有形固定資産合計	39,824	43,056
無形固定資産	177	187
投資その他の資産		
投資有価証券	331	404
長期貸付金	126	99
差入保証金	6,544	7,851
賃貸不動産（純額）	392	391
繰延税金資産	2,514	2,503
その他	844	826
貸倒引当金	△11	△9
投資その他の資産合計	10,742	12,067
固定資産合計	50,744	55,310
資産合計	66,428	71,728

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,399	18,086
1年内返済予定の長期借入金	695	160
リース債務	487	611
未払費用	3,554	3,313
未払法人税等	1,106	1,046
賞与引当金	543	190
資産除去債務	214	—
その他	1,149	841
流動負債合計	24,150	24,250
固定負債		
長期借入金	160	—
リース債務	3,983	6,059
長期預り保証金	1,244	1,234
役員退職慰労引当金	419	414
退職給付に係る負債	1,339	1,433
資産除去債務	1,083	1,087
その他	32	30
固定負債合計	8,263	10,260
負債合計	32,413	34,510
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,867	2,886
利益剰余金	30,311	33,431
自己株式	△2,083	△2,049
株主資本合計	33,756	36,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106	158
退職給付に係る調整累計額	117	92
その他の包括利益累計額合計	224	250
非支配株主持分	33	37
純資産合計	34,014	37,217
負債純資産合計	66,428	71,728

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	105,281	117,447
売上原価	80,084	90,017
売上総利益	25,196	27,430
営業収入	1,794	1,726
営業総利益	26,990	29,156
販売費及び一般管理費	22,615	23,621
営業利益	4,375	5,535
営業外収益		
受取利息	25	22
受取配当金	11	11
不動産賃貸料	95	95
受取手数料	194	192
その他	149	211
営業外収益合計	475	534
営業外費用		
支払利息	12	12
不動産賃貸費用	74	75
その他	2	5
営業外費用合計	89	93
経常利益	4,762	5,975
特別利益		
投資有価証券売却益	—	0
資産除去債務戻入益	—	4
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除却損	11	12
減損損失	260	—
資産除去債務履行差額	—	9
特別損失合計	272	21
税金等調整前四半期純利益	4,490	5,959
法人税、住民税及び事業税	1,549	1,927
過年度法人税等	△31	△1
法人税等合計	1,518	1,926
四半期純利益	2,971	4,032
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,968	4,029

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	2,971	4,032
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43	51
退職給付に係る調整額	4	△24
その他の包括利益合計	48	26
四半期包括利益	3,020	4,059
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,017	4,056
非支配株主に係る四半期包括利益	3	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(株式報酬としての自己株式の処分)

当社は、2024年1月19日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬及びパフォーマンス・シェア（業績連動型株式報酬）として2024年2月5日を期日とする自己株式の処分（13,309株）を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が19百万円増加し、自己株式は34百万円減少しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	1,639百万円	1,797百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	104,963	317	105,281	—	105,281
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	0	0	△0	—
計	104,963	318	105,281	△0	105,281
セグメント利益	4,330	45	4,375	—	4,375

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スーパーマーケット事業」のセグメントにおいて、退店の意思決定をした店舗について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、第3四半期連結累計期間において260百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	117,142	304	117,447	—	117,447
セグメント間の内部 売上高または振替高	0	0	0	△0	—
計	117,142	304	117,447	△0	117,447
セグメント利益	5,497	37	5,535	—	5,535

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計
	スーパーマ ケット事業		
商品の販売(売上高)	104,963	317	105,281
その他(営業収入)	634	14	649
顧客との契約から生じる収益	105,598	332	105,930

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. 四半期連結損益計算書上の営業収入に含まれる顧客との契約から生じる収益以外の収益は、当第3四半期連結累計期間において1,145百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計
	スーパーマ ケット事業		
商品の販売(売上高)	117,142	304	117,447
その他(営業収入)	624	15	639
顧客との契約から生じる収益	117,767	319	118,086

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. 四半期連結損益計算書上の営業収入に含まれる顧客との契約から生じる収益以外の収益は、当第3四半期連結累計期間において1,086百万円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。